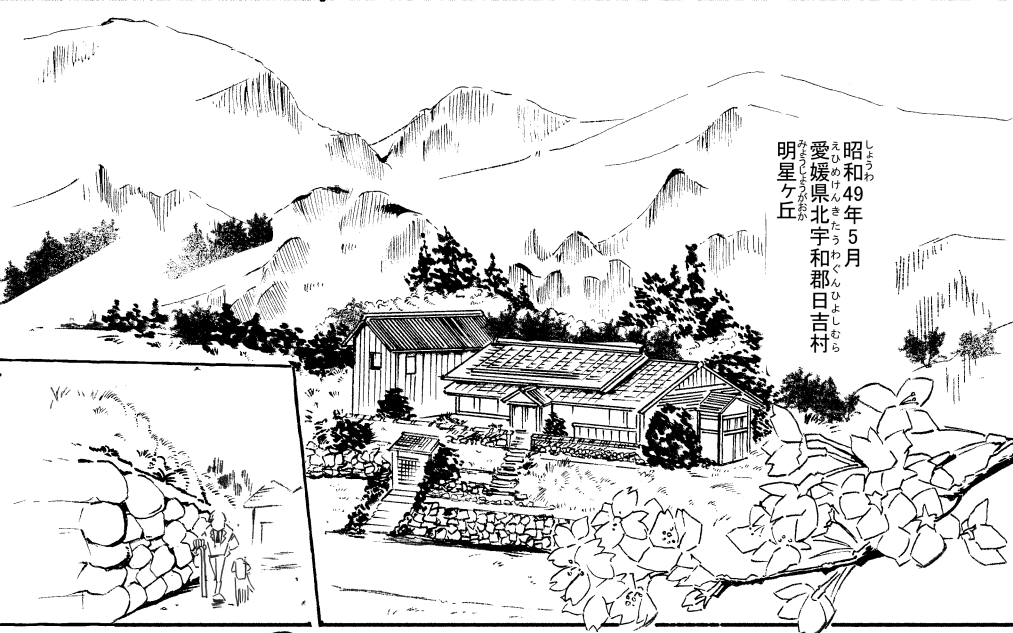
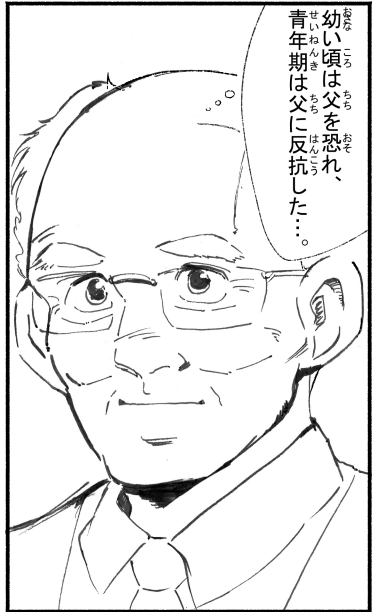


昭和49年5月
愛媛県北宇和郡日吉村
明星ヶ丘

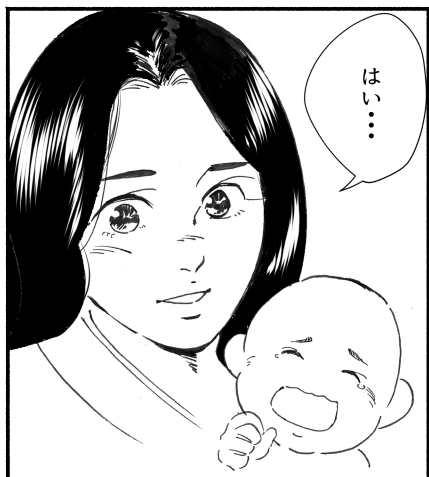
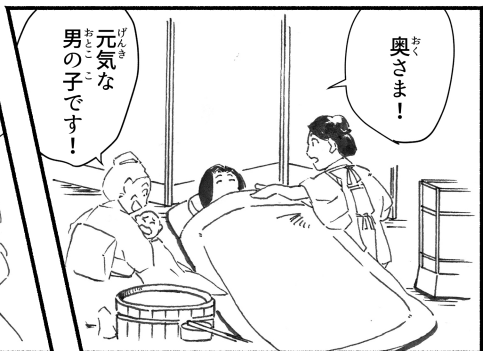
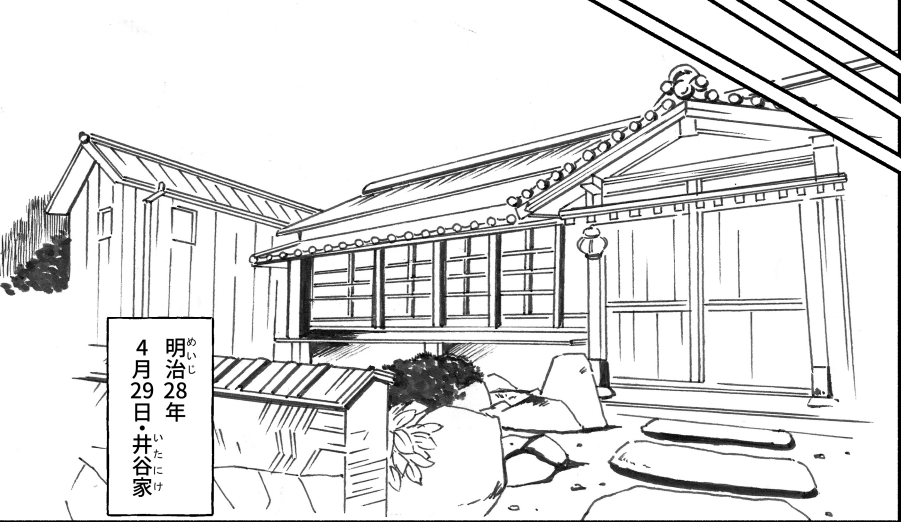



井谷正命先生顕徳碑

そんな父の
偉大な背中を追いつける
人生だった…。




幼い頃は父を恐れ、
青年期は父に反抗した…。






私は父・正命と
母・和香栄との間に
長男として生まれた。

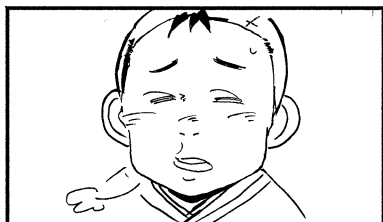
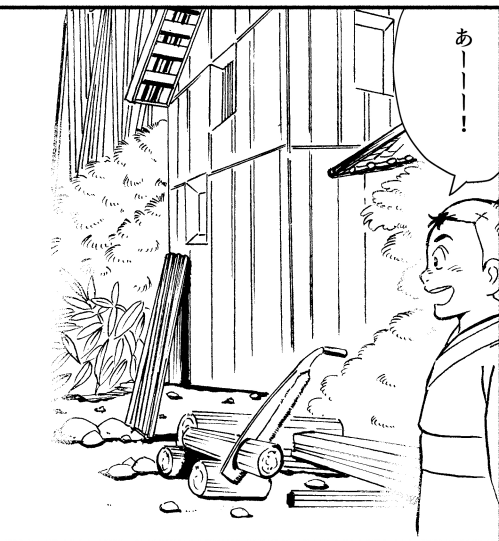
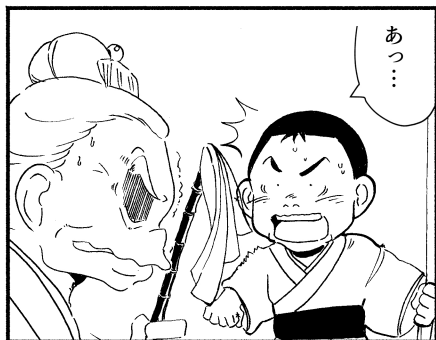


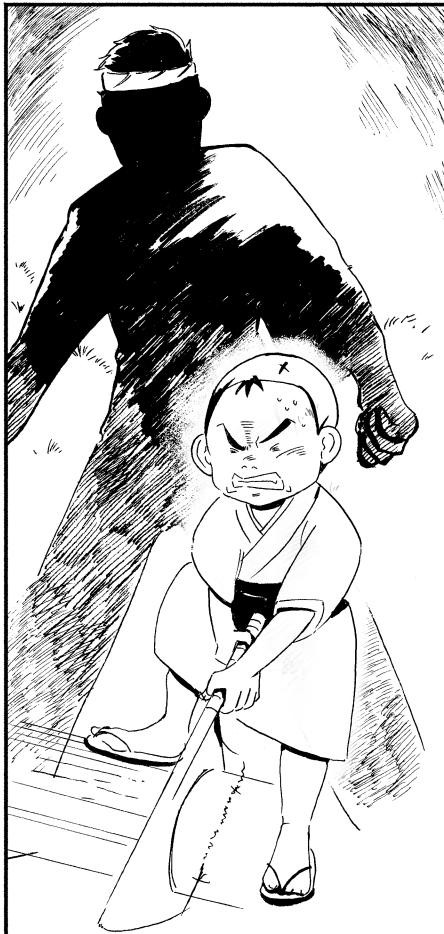
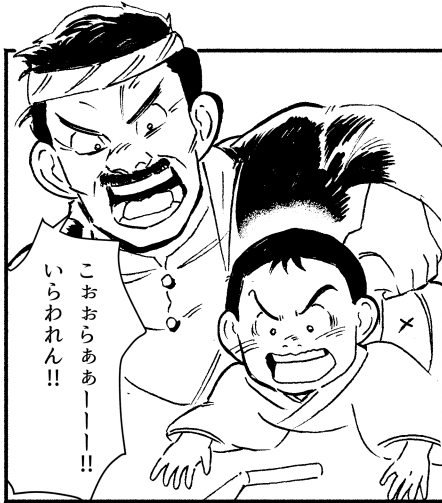
井谷家は、
江戸時代から
代々庄屋を
務めてきた。



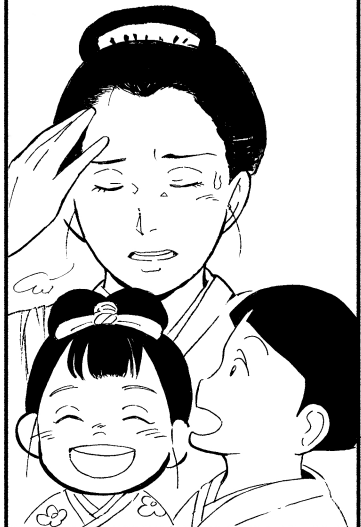
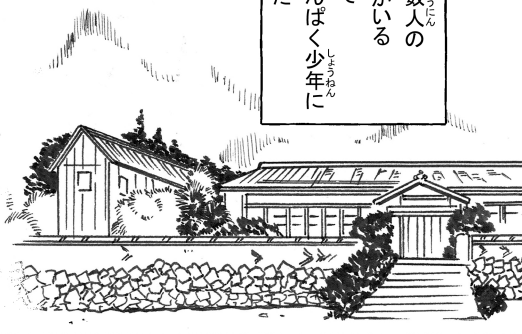
日向谷にあった屋敷は
あまりに大きく
手がかるため、
下鍵山に一部を移築した。

それが、今も
私が住む家である。

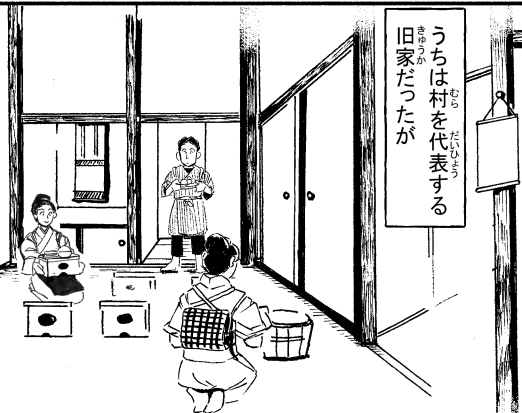




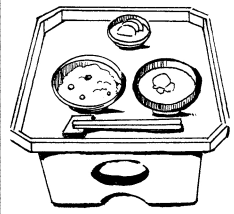
家族と数人の
奉公人がいる
家の中で
私はわんぱく少年に
成長した



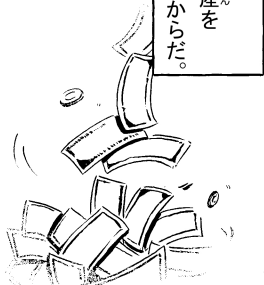
うちは村を代表する
旧家だったが



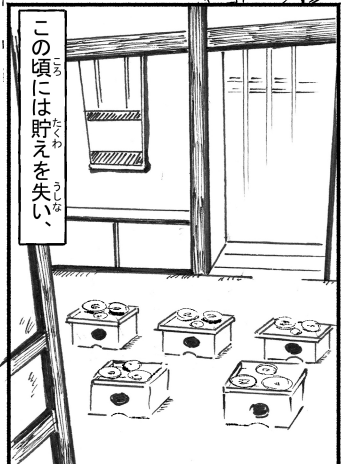
とても
つましい
生活だった。

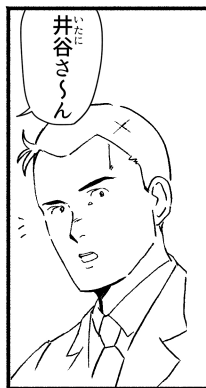


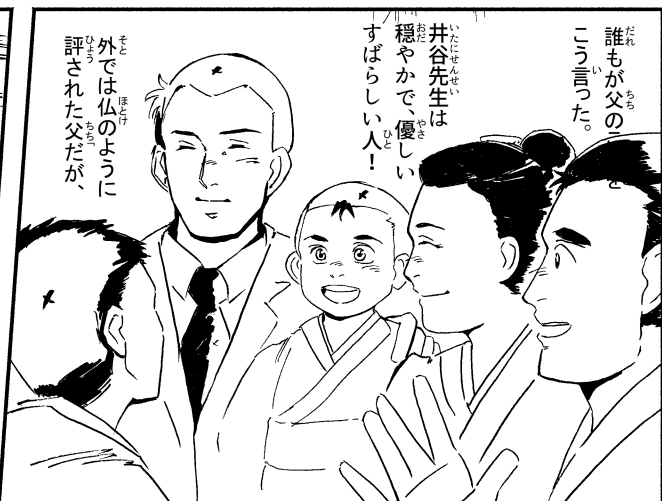
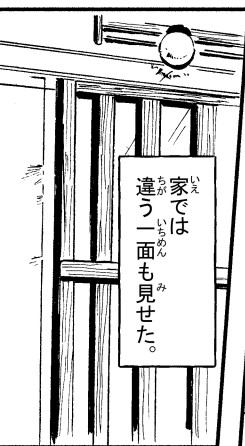
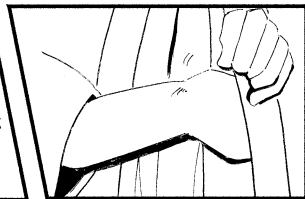
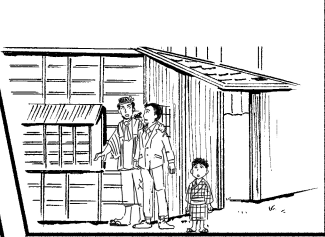
なぜならば、
父が井谷家の財産を
村のために使ったからだ。

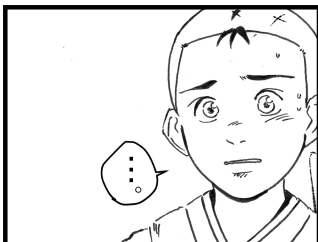


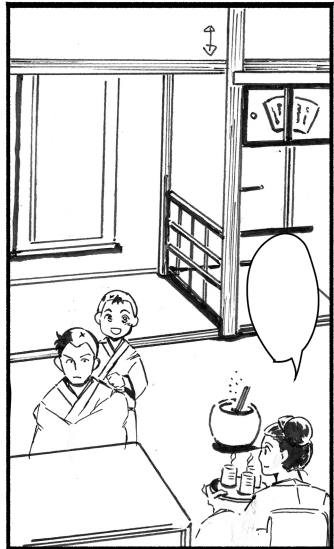
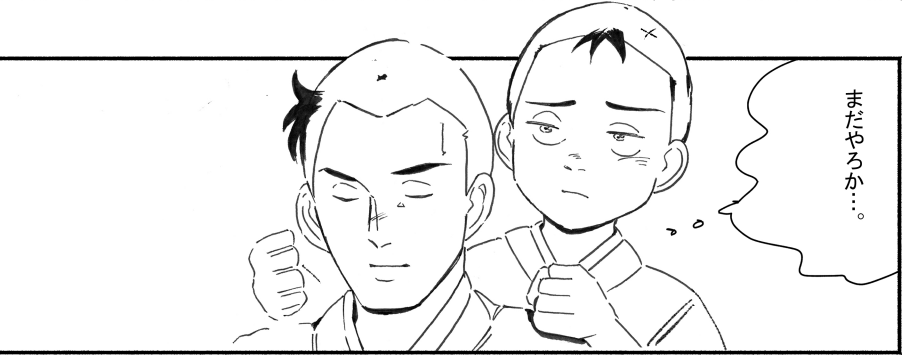
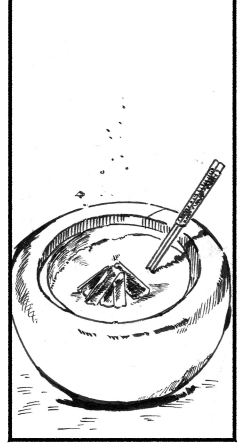
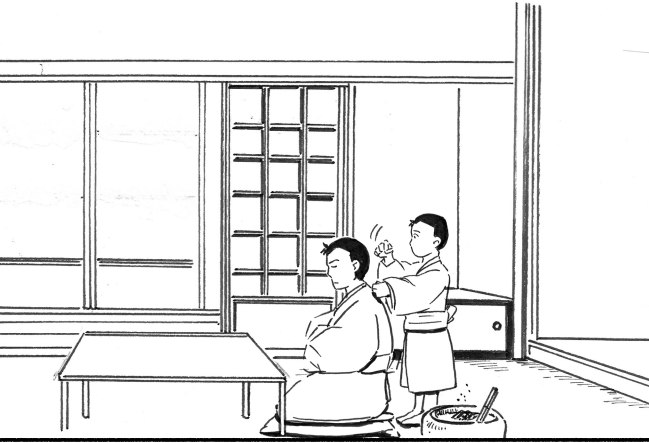
この頃には貯えを失い、









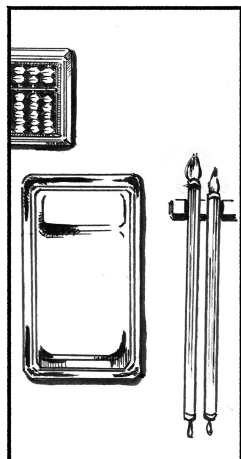


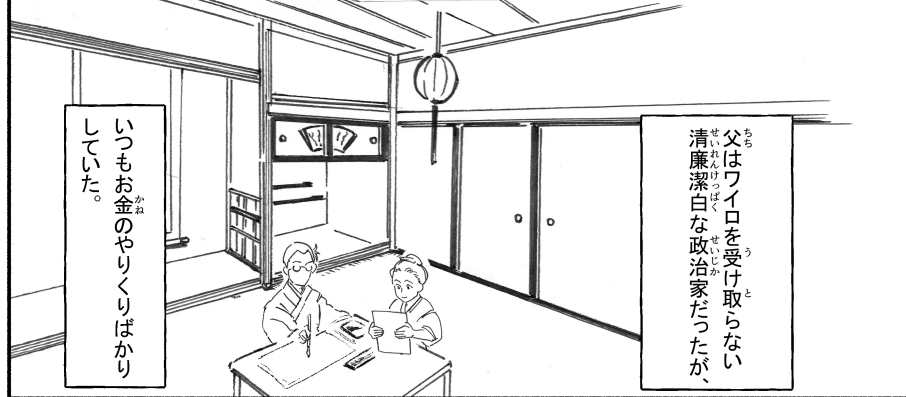


旦那様。
米の出来ですが…

同じ人間じゃのに。
なんで小作人はこがいに
立場が弱いんやろう…？

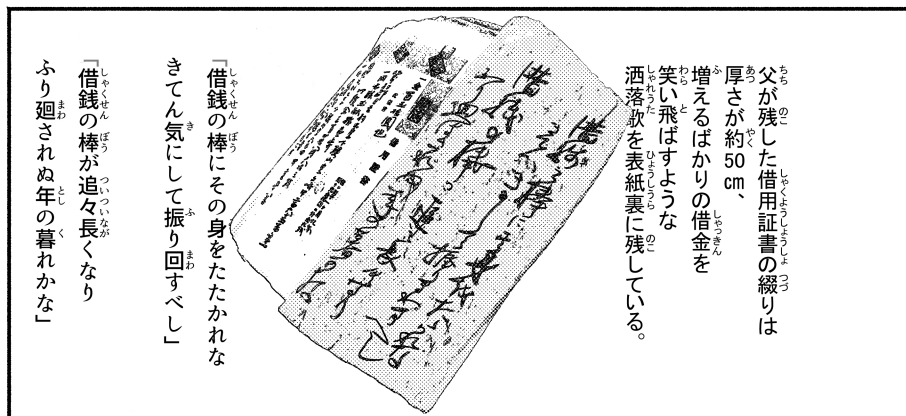






いつもお金のやりくりばかりしていた。

父はワイロを受け取らない
清廉潔白な政治家だったが、



「借銭の棒が追々長くなり
ふり廻されぬ年の暮れかな」

「借銭の棒にその身をたたかれば
きてん気にして振り回すべし」

父が残した借用証書の綴りは
厚さが約50cm、
増えるばかりの借金を
笑い飛ばすような
洒落款を表紙裏に残している。

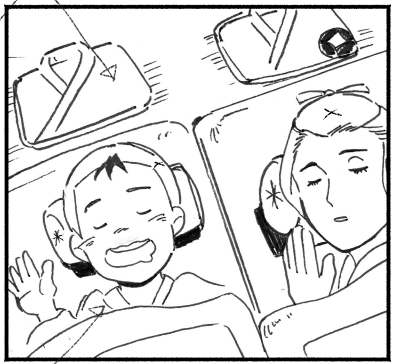
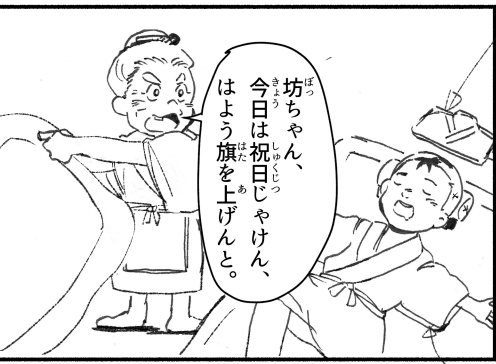


さらに数学は最も得意とする、
学問も教養もある人だった。

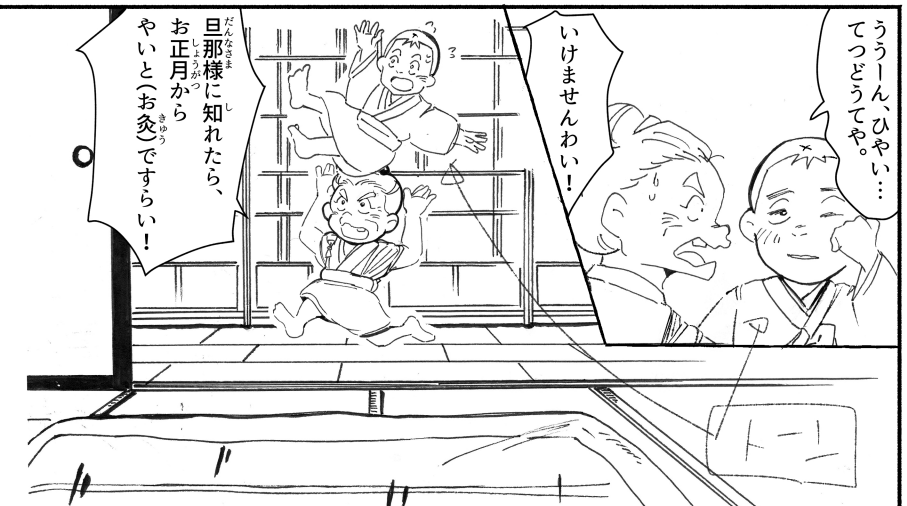
また父は和歌や漢詩、
歴史の知識が深く、

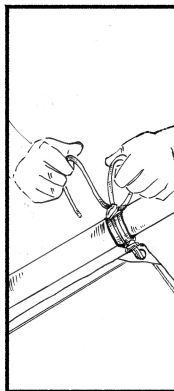
そんな父は、兄弟の中で
私にだけ厳しかった。

特にいやだったのが、
祝日ごとに
国旗の上げ下ろしを
一人でしなければならぬ
ことだった。



白のまま



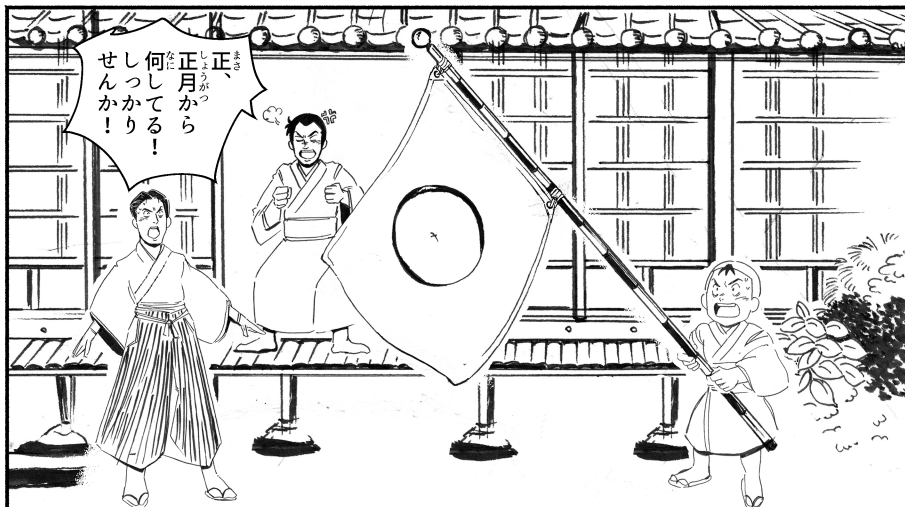


て
か
手
を
貸
す
な
!



あ、坊
ち
ゃ
ん
!

う
う
う
…



正
月
か
ら
何
し
て
る
!
せ
ん
か
り
!